

日野の歴史と民俗 144 (詳細版)

## コレラの流行と庚申塔



図 万延元年建立の庚申塔（1967年撮影）

暑さに向かい伝染病が心配な季節を迎えました。

もともとインドの風土病だったコレラは、19世紀のはじめに世界的に流行しましたが、日本に入ってきたのは文政5年（1822）のことでした。

「薬祖神」として知られている「すくなひこな少彦名神社」（通称しんのう心農さん 大阪府中央区道修町）で配布される「張り子の虎」の由来には、文政5年のコレラ大流行の折に、虎の頭蓋骨（鬼をも殺す薬効があるといわれていた）を配合した「ことうまつきうおうえん虎頭殺鬼雄黄圓」という丸薬を作り、張り子の虎を配布したと記されています。

安政5年（1858）の大流行の時には、全国で約4万人が亡くなったといわれ、致死率が高いため、「三日コロリ」と恐れられ、人々は神仏に祈ったり、まじないをしたりしたそうです。

日野にも、万願寺にコレラの流行が収まるように祈願した庚申塔が残されており、以下のように記されていました。（犬飼康祐氏の調査による）

前面 庚申塔  
右側 万延元年八月庚申日  
台前 日野万願寺  
上組講中

\*ただし、万延元年（1860）8月には、庚申日はない

庚申塔は、日野753番地の日本ミルクコミュニティ工場近くの道路沿いにありましたが、現在は区整理のため少し東に移転しています。この、庚申塔のおかげで、当時の日野宿では患者が1人も発生しなかったと言い伝えられています。

明治10年（1878）にも大流行し、9月に日野宿でも患者が出始めました。『河野清助日記』同年9月26日の項には、流行を抑えるために、祈祷と大般若経が行なわれたと記されています。また、明治19年の日記にも、8月に東京・横浜でコレラが大流行し、祭礼など大勢の人が集まる催しは停止するようにとの布告が出されたとあります。日野でも八坂神社の祭礼が10月に延期され、平山では死者も出て火葬にされたことが記されています。

万願寺の庚申塔は、剥落が進み、台石や由来を記した説明版もなくなってしまっていますが、恐ろしい伝染病にも神頼みをするしかなかった当時の状況を伝える、貴重な資料です。

（日野市郷土資料館 北村澄江）

◎これは「広報ひの」平成24年6月15日号に掲載された記事の詳細版です。

資料館にて印刷したのも配布しています。

（問）日野市郷土資料館（Tel 042-592-0981）